意欲という現実

Kuroda International Foundation
Takeshi Kuroda

全ての現実は意欲という基盤において存在する。意欲は、企業においては労働意欲として、存在する。新しい就業スタイル、GAFAM や NETFRIX など、これら新しい就業環境は、企業理念とともに就業意欲を相違させるのである。

これらは環境と対価における正しさが就業意欲を与えるのである。これは、強制という現実が意欲の喪失を与えるのであり、自主性という現実は必ず意欲を与えるのである。

これは、インド共和国において熱帯と怠惰性という現実があり、他方には勤勉性という現実を対比させるとき、これらは必ず意欲に基盤する相違なのである。

これらは競争原理と資本主義においては、金銭の対価とその競争への勝利が、根本性となる。これらはこの現実を有する自由主義陣営において正しいと考える。GAFAM や NETFRIX においてもこれらは否定できないと考える。

しかし人間がその本来の要求や目的を行うことは、正しい要求である。これらは霊長として、生存原理でない、その崇高さという現実は新しい未来の創造を可能とできる。

意欲の減退は必ず自己の喪失を与えるのである。意欲はその生活環境と就業環境を提供しなくてはいけない。これらは生存への保証を有し、その安定性を求める。

これらは全ての情報把握とともに自己の安定性を行なうことであり、生存を離れた自己は、その人生の目的を希求するという最もな意欲を与えられるのである。